

大相撲五月場所観戦日記  
コロナ規制は解除になったが・・・

**2023.5.14.(初日)** 「久しぶりに国技館が15日間満席になる」と騒いでいるアナウンサーがいたが、実際のところは、前売り段階で完売(札止め)ということなので、茶屋やエージェン트가全券を買い切っただけで、実際にお客が入って満席になるかどうかはわからない、というのが正しい読み方らしい。

初日の土俵が始まったが、どこことなく重量感・充実感のない土俵で、テレビ観戦とはいえ「釘付け」になるほどの緊迫した空気にならない。

初日の土俵は、役力士では小結正代が敗れただけでさしたる波乱もなく終わったのだが、満足感がなかった。横綱もいるし、大関もいるのだが、「いつこけるのだろうか」と思いながら見ているせいか、面白味が湧いてこない。土俵の上り下りの足運びを見ただけでわかる大関、勝つには勝ったが足腰に安定感が見えない横綱、いずれも素人が見ても期待できないことがわかってしまう。

そんな中で、テレビ中継を行なうNHKだけが過剰に騒ぎたてる「大関取り」も興ざめの基になっている。

**2023.5.18.(5日目)** 千葉では気温が28度近くまで上昇し、全国各地で30度を超えた。5月中旬を過ぎたばかりなのに……。序盤戦(5日目まで)が終った。全勝は横綱照ノ富士・関脇の若元春・平幕の明生の三力士だけになった。

のびのびと自分の相撲をとっていた関脇の大栄翔と若元春が目立ったが、大栄翔は5日目に阿炎に突き落とされて1敗になってしまった。明生と朝乃山が自分の持ち味を出し切って淡々と相撲をとっており、侮れない存在かもしれない。

一見横綱が先頭に立って、「様になっている」ような結果にはなったが、足腰に余裕がなく棒立ちで、抱え込み・相手の腕をかんぬきに決めたり、きめだして勝ったりで、強引さと乱暴さが目立つ。前後左右に動きまわる力士が相手だったらどうなるかという不安が残るが、今場所はこの種の力士がいるだろうか。

**2023.5.19.(6日目)** この日の土俵で目立ったのは、朝乃山の落ち着き払った四つ相撲と大栄翔の大栄翔らしさが光った突き押し。

2mを越す身長の大青鵬が5勝1敗の成績を上げている。大きな体ゆえの長い腕で、どんな形になっても相手のまわしに手が届いてしまうので、何とか凌いでいるうちに勝ってしまうという、セオリー外の相撲は手強い。こういう相撲をとる力士をどこかで見た事があるなと思って考えてみたら、結びの一番に登場していた。

何が飛び出すかわからない宇良を相手に、速攻で攻めまくって勝った明生の相撲は、「明生復活」を感じさせた。

全勝	照ノ富士、明生、朝乃山	全勝の一角にいた若元春が、阿炎の奇襲に敗れて1敗になってしまった。
5勝1敗	霧馬山、大栄翔、若元春、大青鵬	

**2023.5.20.(7日目)** 朝乃山は一山本を難なく退け、続いて明生も佐田の海に攻め込まれはしたが突き落として、これまた無敗を堅持。

全勝	照ノ富士、明生、朝乃山	大青鵬は剣翔の速攻に手も足も出せず敗退、霧馬山は正代の寄り身に屈して脱落。
6勝1敗	大栄翔、若元春	

**2023.5.21.(中日)** 大きな動きが現れた。朝乃山がいつもの良い形になりはしたが、大青鵬の大向こうから伸びる腕にまわしを取られてあえなく土俵に転がされてしまい、1敗に後退。

大青鵬の常識では考えられないような相撲ぶりにただただ驚くばかり。明生は立ち合い直後のせめぎ合いの中で平戸海に前みつをとられ、急襲に遭い土俵外へ。

大栄翔は翠富士に、若元春は錦木に敗れてしまい、遂に全勝は琴勝峰を下した照ノ富士だけになってしまった。

全勝	照ノ富士
7勝1敗	明生、朝乃山
6勝2敗	貴景勝、霧馬山、豊昇龍、大栄翔、若元春、平戸海、北青鵬、妙義龍

**2023.5.22.(9日目)** 全勝から2敗までの力士の直接対決が始まり、九日目に大きな動きが起きた。妙義龍は王鵬の下りながらの叩き技に土俵に這い、後退。続く朝乃山は熱戦の末、竜電を破り勝ち越し第二号となった。前日の北青鵬戦の黒星をのぞけば最も安定している感じがする。ことによると……という予感がちらつき始めた。

北青鵬は「北青鵬らしい相撲」でさらに1勝、平戸海も平戸海らしい巧さで北勝富士を下した。関脇同士の対決二番は、若元春と霧馬山に凱歌が上がり、大栄翔と豊昇龍が3敗に後退した。貴景勝も錦木の力強い相撲を裁ききれず土俵を割ってしまい、先頭集団から脱落。

8勝1敗	照ノ富士、明生、朝乃山
7勝2敗	霧馬山、若元春、平戸海、北青鵬

結びの一番、照ノ富士は明生の前後左右からの早い展開での攻めに着いていけず敗退。やはり今場所の照ノ富士を攻略できるのは、素早

い動きと前後左右からの揺さぶりだった。明生も朝乃山同様に、自信を持って自分の相撲をとっている感じが表情に表われていた。

**2023.5.23.(10日目)** 朝乃山は2敗の平戸海の攻撃を上手くさばいて、落ち着きと巧さが光った。

明生は昨日の横綱戦と同様の取り口で土俵際まで行き、ほぼ勝ち星を掴んだところまで行ったのだが、北青鵬の棒立ちから手を伸ばしてつかんだまわしで上手投げを打たれて、土俵下に転げ落とされてしまった。明生の取り口も決して悪くはなかったのだが、無念の黒星となってしまった。

9勝1敗	照ノ富士、朝乃山
8勝2敗	霧馬山、明生、北青鵬

2敗の関脇同士の対決となった霧馬山・若元春戦は双方とも良い所を出し切ったのだが、若元春のうまさよりも霧馬山の巧みさが一枚上だった。

結びの一番、琴ノ若は善戦したものの照ノ富士の力づくには叶わなかった。琴ノ若も横から攻める等の工夫をすればもう少し展開が変わったと思うが、残念な結果に終わった。十日目の土俵を終えて、賜杯争いは5人に絞られたが、明日の明生・朝乃山戦、霧馬山・平戸海戦、照ノ富士・豊昇龍戦が分岐点になるかもしれない。それよりも若元春・北青鵬戦の方が重要かもしれない。

**2023.5.24.(11日目)** まず最初の注目の取組は明生・朝乃山戦。立ち合いの腰の位置が低い力士同士の対戦なので、立ち合いの瞬間から緊張して凝視していなければならない。明生はいつも通りのきれいな立ち合いだったが、朝乃山はさらに低かった。白鵬の全盛時代を思わせるような左膝が深く曲がった立ち合いで朝乃山は左でやや浅めの良い位置のまわしを取った。明生がパワー全開で寄りたてて土俵際まで運ばれたが、このまわしが効いていたせいか持ちこたえ、土俵際での突き落として勝ち星を得た。オーソドックスなきれいな四つ相撲で、しかも極めて短時間ではあったが攻防のある一番だった。

次に登場したのは霧馬山で、今日の相手は平戸海。これまたオーソドックスな四つ相撲の技能派同士の戦いで緊張の一番。平戸海の善戦を退けて霧馬山が9勝目を上げた。

昨日霧馬山に敗れて3敗になってしまった若元春と2敗の北青鵬の対決は、セオリー通りのきれいな相撲と、セオリー外の何が出てくるかわからない若手巨漢力士との対決で、これまた目が離せない。若元春はさすがと思えるような前さばきで左を深く入れて縦みつ近くを取ったのだが、真っ正面に食い付く形になってしまい、北青鵬の腕が上から伸びてきてまわしを捕まれてしまった。北青鵬にじわじわと土俵際まで追い込まれたところで捨て身のうっちゃりが功を奏した。これで若元春も勝ち越し、NHKの放送内容が騒々しくなってきた。

10勝1敗	照ノ富士、朝乃山
9勝2敗	霧馬山

結びの一番は、豊昇龍の矢継ぎ早の縦横無尽の攻めが期待されたのだが、真っ正面から入ってすんなりと両差しになったのは良いが、横綱

にあっさりきめ出されてしまった。あえて両差しを誘ったと思える節もある一番だった。明日の結びの一番は、照ノ富士・若元春戦だが、若元春も両差しに誘い込まれないように気をつける必要がある。

**2023.5.25. (12日目)** 朝乃山が上位陣とあてられることになり、優勝の遊家を左右する取組は後半戦に集中した。前半戦で会場が湧いた一番は宇良・翔猿戦ぐらいだったかもしれない。25年ぶりに飛び出た決まり手は「ずぶねり」で、25年前には37年ぶりと言われたので、結果的には、62年間で2回しか見られないような珍しい決まり手だったということになる。

昨日10勝目を上げた朝乃山は関脇大栄翔との対戦。大栄翔の完璧な押しにさすがの朝乃山も刃が立たなかった。関脇霧馬山は大関貴景勝の立ち合いの一つ目の突きよりも僅かに早く右を差して一気に駆け抜けて10

11勝1敗	照ノ富士
10勝2敗	霧馬山、朝乃山

勝目を上げた。

結びの一番は、関脇若元春がどんな形で照ノ富士の動きを封じるかに注目したが、思いの外簡単に力相撲に持って行かれてしまった。

昨日までで賜杯争いは3人に絞られたが、今日12日目を終えて、照ノ富士が単独トップに飛び出て、明日から始まる三人の直接対決に持込まれることになった。まずは、明日の照ノ富士・朝乃山戦に注目。

四人の関脇が全員勝ち越したので、NHKが騒ぐ「大関取りの起点論」は四人に向けられてきた。

「10勝を上げれば大関取り・・・」と、「たれば先行」で五月蠅いことこの上なし。せめて千秋楽の相撲が終るまでは静かに観戦・観察したらどうか。

**2023.5.26. (13日目)** 優勝争いをする三人のあとに続く唯一の3敗力士である剣翔が、今日若元春に敗れて3敗力士はいなくなってしまったので、完全にこの三人の戦いになった。

霧馬山が北青鵬をどう裁くか、負けることはないだろうか。多くの相撲ファンの注目はまずはこの一番に集った。霧馬山は低い立ち合いから北青鵬の右腰に、左上手と右は前みつで食い付いた。流れの中で北青鵬は上の方から伸ばした腕でまわしを取りにきたが、霧馬山は左足で切返して2mの長身を刈り倒すように転がした。北青鵬を攻略するにはこういう作戦が有効で、昨日の豊昇龍も似たような作戦だった。

霧馬山はこれで2敗を堅持して11勝2敗。

本日の主要取組二番目は結びの一番、照ノ富士・朝乃山戦。朝乃山は低い立ち合いから左の脇を固めて照ノ富士の右をおっつけたが、差し手が入りしかも深めに入ってしまった。照ノ富士はそこをすかさず待っていたかのようにきめて、小手投げに振り、勝負あった。朝乃山の鋭いおっつけに対して、わざと右腕を緩めて脇をあけて朝乃山の「差し」を誘い、引っ張り込んだという計画的な動きのようにも見えた。

霧馬山が北青鵬に対してとったような取り口にしないと、今場所の照ノ富士を攻略することは難しい。

12勝1敗	照ノ富士
11勝2敗	霧馬山
10勝3敗	朝乃山

明日対戦する霧馬山が勝ち残りて土俵下から食い入るように見つめていた。

これで賜杯争いは照ノ富士・霧馬山の二人に絞られたが、明日の結果次第では、3敗に後退した朝乃山にもまだチャンスがなくなったわけではない。

**2023.5.27. (14日目)** いよいよ大詰め、あと二日の勝負となった。幕内取組の二番目に出てきた北青鵬に異変があった。初日から昨日まで右膝にサポーターが付いていたが、今日から左膝にもサポーターとテーピングが付いた。ああいう相撲は怪我の元と言われているが、やはりそうかという感じ。賜杯争いに関係する取組はまだまだずっと先。

朝乃山は堂々たる相撲で正代を寄り倒し3敗を堅持。

大栄翔は勝って9勝5、豊昇龍・若元春も勝って10勝4敗になった。大栄翔の明日の結果次第では四関脇が10勝以上の成績ということになり、NHKの実況アナウンサーは「大関取り!!」の大連発。この手の騒ぎには乗らず冷静な対応をしてきた北の富士さんが解説から外れ、舞の海さんもNHKの御神輿と一緒に担ぎ出したので騒々しいこと夥しい。

そんな喧噪の中で照ノ富士と霧馬山が土俵に上がった。立ち合い後に霧馬山は左でおっつけて照ノ富士の右

肩を上へ押上ながら攻め立てた。ここまでは良かったが、結局やや浅めの位置にまわしを取ってしまった。照ノ富士にとっては苦しい体勢になりはしたが、じわじわと盛り返した結果力で霧馬山を寄り切ってしまった。

13 勝1敗	照ノ富士
12 勝2敗	
11 勝3敗	朝乃山、霧馬山

霧馬山の立場で見れば、立ち合いで前みつを取って走りながら頭を付ける作戦の方が良かったかもしれない。

というわけで、照ノ富士の優勝が決まってしまう、千秋楽の取組には面白さは何も残らないことになってしまった。

相撲記者クラブの三賞候補者情報がテレビ中継の中では語られなかったが、私案「今場所の三賞」を考えて見た。殊勲賞を「優勝力士に土を付けた力士」と定義するなら明生、「今場所を面白くした力士」とするなら霧馬山・朝乃山も同じ条件になる。技能賞を「15 日間を通じて技能に長けた相撲をとった力士」と定義するなら、該当者はいないように感じた。霧馬山・若元春・豊昇龍・明生・朝乃山などが光る相撲を見せてはいたが、光らない日も数多くあった。日によって部分的に該当するとなれば多くの力士が対象になってしまう。敢闘賞は朝乃山を置いて他にないような気がする。

\*殊勲賞=明生 \*技能賞=該当者なし \*敢闘賞=霧馬山・朝乃山 と出してみた。

**2023.5.28.(千秋楽)** 十両の優勝決定戦は、14 勝 1 敗の豪ノ山・落合の間で行なわれ、豪ノ山が勝った。これまで十両の優勝決定戦は星のつぶし合いの結果だったので 3 敗・4 敗・5 敗で行なわれることが多かったが、今場所はハイレベルの優勝決定戦となった。十両には次の時代を動かしそうな力士が何人か登場しており、これから期待できそうな気がする。やがて彼等が幕内に進出してくる訳なので、幕内の戦場も変革の段階に入ってきているに違いない。

朝乃山は剣翔を破って千秋楽の土俵を白星で飾り、来場所につながる「明るさ」を感じさせた。

大栄翔は、完璧と言えるような動きの良い突き押し相撲で若元春を破り10勝5敗で締めた。

豊昇龍は、霧馬山を豪快な下手投げで転がし、11勝4敗で存在感を示した。霧馬山の関脇昇進については先場所からの流れもありほぼ確定と見られるが、場所が終ってしまって冷静に振り返ってみると、11勝 4 敗という数字よりも「14 日目と千秋楽の後味の良くない黒星」の方が気になる。

結果として、大栄翔と若元春は10勝5敗、霧馬山と豊昇龍は11勝4敗と、四人の関脇全員が10勝以上を上げたが、昨今のように横綱・関脇が絶対的な強さを持っていない戦場で、三場所程度の瞬間風速のような成績評価だけで関脇昇進を決めることが正しいのだろうか。霧馬山の昇進に異論はないが、この先のことを考えると少々気がかりではある。

結びの一番の結果は、両力士の体調や相撲っぷりから見て、軍配が返る前に既に察しが付いていた。

と見るのは私だけではなかったと思うが……。

そして、照ノ富士の 8 回目の優勝で、幕が降りた。

新大関誕生、名古屋場所はどんな場所になるのだろうか。

以上